

失法勝利云云。文の心は、若し弟子あて師の過を見れば、若は實にもあれ、若は不實にもあれ、已に其心有は身自ら法の勝利を壞失者也云云。又止観一云、如來慇懃稱

歎 此法 聞者歡喜。常啼東請 善財南求 藥王燒手 普明刎頭。一日三度捨 恆河

沙身 尙不能報 一句之力。況兩肩荷負百千萬劫 寧報佛法之恩云云。文の心は

如來ねんごろに此法を稱歎し給へば聞者即歡喜す。常啼菩薩は東に法を請ひ、善財

菩薩は南に法を求め、藥王菩薩は臂を燒き、普明王は頭を刎られたり。一日に三度恆

河の沙の數程身をば捨るとも、尙一句の法恩を報ずる事あたはじ。況や二の肩に荷

負て百千萬劫すとも、寧佛法の恩を報ずる事あるべからずと云へる心也。止観五云

香城に骨を粉き、雪嶺に身を投とも、亦何ぞ以て徳を報ずるに足んやと云へり。弘決

四云 昔毗摩大國と云國に狐あり。師子に追れて逃けるが、水もなき渴井に落入ぬ。

師子は井を飛越て行ぬ。彼狐井より上んとすれども深き井なれば上る事を得ざりき。

既に日數を経るほどに飢死んとす。其時狐文を唱て云 禍哉。今日苦所逼 便當沒

命於丘井。一切萬物皆無常。恨不以身飼師子。南無歸命十方佛 表知我心淨

無已文。文の心は、禍なる哉。今日苦にせめられて即當に命を渴井に沒すべし。一切